

(個人用)

行政視察等報告書 (個人用)

令和 7 年 3 月 26 日

知立市議会議長 様

報 告 者	小林 昭式
日 時	令和 7 年 3 月～令和 7 年 3 月 26 日
視察 (研修) 場所	石川県金沢市、輪島市
目 的	能登半島地震復興支援状況
<p>【概 要】</p> <p>当初、輪島朝市は大規模火災の焦げ臭いにおいが立ち込め、断水、停電に加え輪島市内では崩れた家屋が道路にははみ出し道を塞ぎ、それを避けながら通行している現状。半年経っても崩れそうな家屋が多数、9 か月過ぎたあたりから公費解体がすすみはじめ、断水、停電もかなりの地域で解消されてきた。テレビや新聞報道で数多く取り上げられ、横倒しになった五島屋のビル解体が着手され、やつと復旧から復興へと進みはじめる事が出来たのかなどの思いになる。</p> <p>しかし 9 月 21 日の豪雨により二重被災で復興途上の妨げになった。現在、震災発生から 1 年 3 か月が経ち、街並みも変化が見られ、かなりの地域で断水、停電は解消されトイレも使用できる状態となってきた。</p> <p>1, 中小企業基盤整備機構北陸支部、能登半島地震災害及び輪島朝市組合支援状況の説明をうける。</p> <p>3, 各ボランティア団体 町野復興プロジェクト実行委員会・災害支援団体ソナエルフクイ・ヒューマンシールド神戸等のボランティア活動視察</p>	

【所感、知立市政への反映に向けた課題等】

輪島市は、地震と豪雨の二重複合災害を受けた。地理的に山側と海側の厳しい立地条件である。震災後市外に避難していた高齢者は帰ってくるが若い世代は再び戻ってくるのをためらう、高齢化し人口減少が懸念されている。インフラ整備は進んでいるが、公費解体もなかなか進展せずに放置され、人が戻ってくるのも分からないことがあるかも知れないが、地元住民を見捨てないで欲しいとの厳しい声も聞かれた。また、完全復興までには、10年はかかるとも聞きました。

当初において

災害発生直後には、ボランティア活動の重要なことは行政や市民も周知している。

ボランティア活動を管理するにあたり専門のボランティアコーディネーター設置しなければいけないと思います。社会福祉協議会や知立市防災ボランティア連絡会の方達は、行政が研修を開催し受講者に災害ボランティアに認定されていると思いますが、技術系専門ボランティアや一般ボランティア受け入れを調整するために、災害ボランティアセンターを立上げコーディネーターの必要性が重要なことである。

※報告書は視察（研修）場所ごとに作成してください。

報告書は視察（研修）終了後1週間以内に提出してください。